



安曇野市

区長会だより

安曇野市区長会
第7号 R5.10発行

【安曇野市区長会長あいさつ】

令和5年度安曇野市区長会長の土肥三夫です。

さて、この3年間、新型コロナウイルス感染症により、区や市区長会の活動が延期、中止を余儀なくされてきました。このことにより、「つながり」が薄くなり、区の活動にも様々な影響を与えています。

しかし、この3年間で様々な課題が見え、「従来通りの活動を続けてもよいのか」など、区の活動について見直す良い機会ともなりました。

特に、社会におけるデジタル化の進展は目を見張るものがあり、「区の課題解決に向けた活用」や、「デジタル社会に対応した区、市区長会の在り方」について検討していく必要があります。

また、少子高齢化や人口減少により、区の規模を縮小せざるを得なくなってきたという実情に加え、高齢者世帯や一人暮らし世帯などの、支援が必要な人は増加しているなど、区には様々な課題があります。

これらの課題に対応するためには、身近な存在である区が「支え合い」の地域づくりに取り組み、「つながり」ができるように進めていく必要があります。区の活動が充実し「住んでよかった、住み続けたい安曇野」となるように、今後とも区民の皆さんのご協力をお願い申し上げます。



会長 土肥 三夫
(明科地域・上押野区)

安曇野市区長会の活動



【地域を考える研究集会】



【オンライン視察】



【市民活動フェスタへの出展】



【令和5年度 総会】

安曇野市区長会は、支え合いの地域づくりに、取り組んでいます。

安曇野市区長会は市内にある83の区で組織され、地域住民が交流し、つながりを深め、支え合い、助け合える地域づくりを目指し、様々な取り組み、研究を進めています。

新しい区のかたち

コロナ禍の影響により、つながりの希薄化が一層深刻となり、デジタル活用は、つながりづくりの新たな手段として期待されています。効率的な情報の共有により区の理解促進、多世代にわたる地域参画の促進、区運営の負担軽減を目指し、デジタル活用の研究を進めます。



区の理解促進へ向けて



区では、役員の負担が大きい、担い手がいらないなどの課題を抱えています。「区の仕事は大変だ」というイメージを払拭し、地域で暮らす皆さんが共に支え合い、助け合える地域づくりが進むよう、各区における部制度の導入を推進するとともに、区のあり方を見つめ直し、皆で気持ち良く暮らせるための仕組みづくりを検討していきます。

地域と災害

災害はいつどこで発生するかわかりません。災害が起きた時に備え、日頃からの区の防災・減災対策などについて研究を進めています。私たちが過去の経験から学んだ、命を守るために重要となるご近所同士のお付き合ひ、顔の見える関係づくりに取り組みます。



支え合いの仕組みづくり



少子高齢化や核家族化、ひとり暮らし世帯の増加などにより、地域みんなで支え合い、助け合う地域づくりの重要性が増しています。各区で取り組んでいる様々な支援や、取り組みから先進事例を共有し、各区で支え合い、助け合いの地域づくりが推進されるように取り組みます。

区の意義について考えてみませんか？

それぞれの区では、地域に住むすべての人が安心して幸せに暮らすため、楽しいことだけでなく、負担と感ずることも、みんなで分かち合っ
て生きています。区民みんながお互いにできることを、無理なく少しずつでも行い、できないことやできない人を地域みんなで支え合い、助け合っ
て、より暮らしやすい地域をつくっています。行政もあらゆるサービスを提供できるわけではありません。「誰かがやってくれる」のではなく、暮らしている地域を自分たちで守っていくという意識が大切です。皆さんも今一度、区の意義について考えてみませんか？



安曇野市区長会キャラクター

安曇野市区長会